

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和3年7月1日現在）

法人名	(公財) 神奈川文学振興会						
設立年月日	昭和57年4月1日 (名称変更：平成23年4月1日)		代表者名	理事長 村上 博			
所在地	横浜市中区山手町110		電話番号	045-622-6666			
基本財産等	110,000,000	円	県出資額	53,000,000	円	県出資率	48.2 %

2 法人運営における現状の課題

○当財団は指定管理者として神奈川近代文学館の運営に当たっている。令和2年度は、当初県から出ていた8月31日までの全館休館要請を受け、春の特別展「大岡昇平の世界展」を秋に延期し、5月下旬から開催を予定していた企画展「三浦哲郎展」、7月下旬から開催を予定していた「佐藤さとる展」を、それぞれ令和3年度の同時期に延期した。緊急事態宣言の解除により、6月13日から感染症対策を講じた上で再開館、夏は急遽準備した「文学の森へ 神奈川と作家たち展」、秋には「大岡昇平の世界展」を関連イベントなども含めて開催。コロナ第3波の影響で「生誕100年金達寿展」会期中の令和3年1月12日から3月14日まで再び臨時休館した。令和3年3月20日からの春の特別展「創刊101年記念展 永遠に『新青年』なるもの」では観覧予約制を導入、コミックスとのコラボレーションも実施した。年度内の臨時休館日数は予定していた開館日数(展示室)の約40%となった。

年間展示入館者数は令和元年度まで6年連続で4万2千人を超えるなど好調を維持してきたが、令和2年度は8,902人となり、令和2年3月4日から臨時休館となった前年度(45,949人)に比べても約80.6%の大幅減となった。今後も予約観覧を継続するなど感染症対策に留意しつつ、利用者数の回復に努めたい。

○展示企画に連動した講演会等の行事、高等学校文化連盟図書専門部との協力事業、児童向け行事を含む文字・活字文化振興事業などのイベントを感染症対策に留意し実施した。また、文字・活字文化振興の一つであるパネル文学展巡回事業では、データによる提供を開始した。今後も中・高・大学などの教育機関、類似施設、出版社、企業団体との連携を図り、若年層を中心にあらゆる世代へ周知を行い、館利用者数の回復と知名度の向上に努めたい。

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の()内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
1	利用者数(展示・閲覧・会議室利用)	人	73,166 (65,000)	75,601 (65,500)	70,427 (66,000)	73,007 (66,500)	14,066 (67,000)	A
	自己評価(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための県の休館要請(当初8月31日まで)に従い、備考に記載の期間(当初の開館日数の約40%)を休館したため、目標を大幅に下回った。予約制を導入し観覧者を受け入れた3月の新青年展においては、期間目標の約60%の観覧者を確保できた。					感染拡大防止に配慮し混雑を避けて利用していたため、3月から展示室及び閲覧室に予約制を導入し、混雑を避けて利用していただく仕組みを整えた。今後も予約制を継続するなど感染症対策に留意しつつ、利用者数の回復に努めたい。		
	備考							
○展示室の休室 令和2年4月1日～6月12日/令和3年1月12日～3月14日 ○会議室の利用停止 県要請に従い利用自粛要請から利用中止措置へ変更 令和2年4月1日～4月9日 利用者に利用自粛を要請(新規予約停止) 令和2年4月10日～8月31日 利用全面停止 令和3年1月12日～3月31日 利用者に利用自粛を要請(新規予約停止) ○閲覧室の休室 令和2年4月1日～6月12日/令和3年1月12日～3月19日								

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
2	若年層向け行事参加者数(かなぶんキッズクラブほか)	人	1,308 (1,040)	1,127 (1,060)	1,170 (1,080)	944 (1,100)	170 (1,120)	B
	自己評価(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	例年、夏休み期間に紙芝居、子ども映画会、絵本の読み聞かせなどのイベントを実施していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となった。また、高等学校文化連盟等との共催行事もほとんどが中止となった。春休みの映画会は定員を50%に減らし開催、紙芝居はオンライン公開とした。目標には届かなかったが、紙芝居のオンライン公開では年度内に計344件の視聴があり、取組の成果が表れた。				新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、子ども向けデジタルコンテンツ等、対面のイベント以外にも事業の可能性を探りたい。			
	備考							
3	パネル巡回文学展の実施校数	件	24 (14)	33 (14)	39 (14)	32 (14)	21 (15)	A
	自己評価(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に留意しながら、県内を中心に小・中・高等学校の図書室等へのパネル文学展の巡回を実施。パネル展示16校に加え、感染症対策による休校中のオンライン授業にパネル展をデータで提供したケースが5件あり、昨年度の約65%まで利用を伸ばすことができた。				従来のパネル展の利用に加え、学校でのオンライン授業等への活用も呼びかけ、実施校を増やしていきたい。			
	備考							
4	HPアクセス数	件	195,748 (140,000)	185,616 (150,000)	221,942 (160,000)	260,988 (170,000)	146,843 (180,000)	A
	自己評価(目標未達の場合はその理由)				今後の取組方針(目標未達の場合は必ず記載)			
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館の影響により、目標を下回ったが、新たなコンテンツを公開したことや、コミックスとのコラボ企画により新たな利用者層を獲得し、例年アクセス数の減る時期の減少幅を小さくすることができた。				作家のフォトムービー、講演会の音声公開など新たにコンテンツを公開することで、今後もHP、SNS等での発信に加え、動画コンテンツ、資料アーカイブ等の充実も図っていきたい。			
	備考							

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
1	利用料金収入	千円	15,522 (8,974)	13,581 (9,024)	14,024 (9,074)	15,037 (9,124)	2,919 (9,174)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県の休館要請(当初8月31日まで)に従い、備考に記載の期間(当初の開館日数の約40%)を休館したため、目標を大幅に下回ったが、予約制を導入し観覧者を受け入れた3月の新青年展においては、期間目標を上回ることができた。			展示室、閲覧室とも予約制を導入し、混雑を避けて利用できるしくみを整えた。会議室でも換気、消毒等の対策を行っている。引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、利用料金収入の回復に努めたい。				
	備考							
○展示室の休室 令和2年4月1日～6月12日/令和3年1月12日～3月14日 ○会議室の利用停止 県要請に従い利用自粛要請から利用中止措置へ変更 令和2年4月1日～4月9日 利用者に利用自粛を要請(新規予約停止) 令和2年4月10日～8月31日 利用全面停止 令和3年1月12日～3月31日 利用者に利用自粛を要請(新規予約停止) ○閲覧室の休室 令和2年4月1日～6月12日/令和3年1月12日～3月19日								
No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
2	事業収入	千円	8,038 (6,429)	6,136 (6,479)	5,715 (6,529)	6,050 (6,579)	1,598 (6,629)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県の休館要請(当初8月31日まで)に従い、No.1の備考に記載の期間(当初の開館日数の約40%)を休館したため、目標を大幅に下回った。通常通り開館できた秋の大岡昇平展においても、感染対策のためイベント定員を70%に絞り収入が減少したが、来館が叶わなかった方のため講演会を収めたDVDを製作し頒布した。			図録の郵送販売や講演会等の配信、DVD頒布を取り入れ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しつつ、収入の確保に努めたい。				
	備考							
No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
3	「神奈川近代文学館友の会」の会員数	件	1,038 (990)	1,039 (1,000)	994 (1,010)	1,052 (1,015)	868 (1,020)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）			今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）				
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館の影響により、目標を下回ったが、前年度末から会員に更新登録を呼びかけていたため、4月の緊急事態宣言発出前に600人以上が更新を終えており、前年度の約80%を維持することができた。			令和2年度は休館により展覧会の回数が減り、会員にとってはメリットが半減した一年となってしまったため、会員資格の延長を行うなど特典を提示し、令和3年度会員の更新を促していく。				
	備考							

No.	項目	単位	28年度	29年度	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	2年度自己評価
4	年間電力使用量	kwh	788,556 (783,000)	778,180 (782,500)	771,442 (782,000)	741,580 (781,700)	664,909 (781,500)	A
	年間電力料金	千円	16,288 (19,100)	17,400 (19,400)	18,744 (19,100)	18,461 (19,050)	15,812 (19,000)	
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	電気料金の節減を図るため各所営繕工事により照明のLED化を進捗させたほか、指定管理料内でも管球のLED化等を継続して行い光熱費の抑制に十分な成果を上げることができた。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための休館による電力使用量の減少もあったが、来館者エリアは限定され、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため換気量を増やすことが重要であったことから、休館による減少は限定的である。				新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、換気量を増やすことが重要と考えるので、空調機による電気使用の増を見越した節電対応を行いたい。			
備考								

4 取組実績等についての総括（法人）

○県要請による年度内の臨時休館日数は予定していた開館日数(展示室)の約40%となった。展示会は特別展2回、企画展2回の計4回開催したが、利用者数、収入ともに大きく落ち込んだ。事業収入においても、臨時休館による延期、中止の影響に加え、感染症対策のため定員を減らしての開催となったものもあるため、大幅な減収となった。今後も来館予約、イベント予約のシステムを利用し、感染症対策に配慮しつつバランスのとれた事業を展開し、利用者数や観覧料収入の回復に努めたい。

○県内小・中・高等学校への巡回パネル文学展については、休校等の影響もあったが、データによるパネル文学展の提供を開始して利用を伸ばすことができた。引き続き高文連や小・中・高校との連携を図り、コロナ禍でも活動的な若年層のリピーターを増やしていきたい。

○外部組織と提携した講演会や朗読会、文芸映画会などを展示会と連動させて共催し、展示動員を図りつつ生涯学習支援の活動にも力を注ぎたい。

5 取組実績等についての総括（所管課）

○令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館の影響で、展示室・閲覧室・会議室の利用者数は目標を下回ったが、観覧予約制の導入など感染症対策に留意した新たな取組を行い、利用者数の回復を図っている。令和3年3月から開催した「新青年展」では、コミックスとのコラボレーションにより、若年層の入館者数を伸ばすことが出来た。

○高等学校等に展示パネルの貸出を行う「パネル巡回文学展」の実施校数は21校となり、目標を達成するとともに、パネル展のデータ提供を新たに開始し、オンライン授業等での利用も可能となった。このような取組は若年層が文学に親しむきっかけになるため、今後も継続していくことが期待される。また、紙芝居や絵本の読み聞かせ等の若年層向けイベントは新型コロナウイルス感染症拡大防止のためほとんどが中止となったが、紙芝居についてはオンライン公開の取組を行い、344件の視聴があった。今後もデジタルコンテンツの拡充など、コロナ禍における新たな取組が期待される。

○利用料金収入及び事業収入については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館の影響で目標を達成することが出来なかったが、観覧予約制の導入や講演会のDVD頒布など新たな取組を実施した点は評価できる。引き続き感染症対策に留意しながら、収入の回復に努めてほしい。また、友の会会員についても、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館によりメリットが減少したことから、目標を達成出来なかったが、前年度の約80%の会員数を維持するとともに、会員資格延長等の対応を行った。友の会等の固定的な利用者を確保することは安定的な経営を続けるために重要であるため、引き続き、新規開拓へ向けて積極的な取組を期待する。

○昨年度に引き続き照明のLED化を徐々に推進し、年間電力使用量及び年間電力電気料金はともに目標を達成することが出来た。今後も感染症対策に留意しつつ、様々な側面で経費削減に向けた工夫を続けていくことが期待される。

6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	
A	コロナ禍による休館期間を考慮しても経営改善目標に向けた様々な取組が進められ、一定の成果を上げている。